

インターン記録

2021.09 - 12

京都精華大学 デザイン学部
ビジュアルデザイン学科
グラフィックデザインコース
4年 大谷 日南

スケジュール

9月	
16日	紙とペンの試し書き見本帳スキャン(解像度 1200dpi)
27日	公募用ポスター出力 (UV インクジェット)
10月	
11月	
11日	A サンプル1回目の出力 (UV インクジェット)
12月	
8日	1000 線出力 / 校正刷り ◎卒業制作の作品
16日	B サンプル1 回目の出力 (UV インクジェット)
21日	1000 線出力 / 本刷り ◎卒業制作の作品
1月	
13日	A サンプル 2 回目の出力 (UV インクジェット) B サンプル 2 回目の出力 (UV インクジェット)
31日	A サンプル 3 回目・4 回目の出力 (UV インクジェット)
2月	B サンプル 3 回目の出力 (UV インクジェット) 貼り箱のメインビジュアル出力 ◎卒業制作の作品

目次

●公募用ポスター出力（UV インクジェット）

09.27 B1 ポスター 3 枚出力	03
日本タイポグラフィ年鑑 2022 入選	03

●資料サンプルの作成・出力（UV インクジェット）

11.11 A サンプル 1 回目の出力	04
01.13 A サンプル 2 回目の出力	04
01.31 A サンプル 3 回目の出力	05
01.31 A サンプル 4 回目の出力	05
12.16 B サンプル 1 回目の出力	06
01.13 B サンプル 2 回目の出力	06
01.31 B サンプル 3 回目の出力	06

●紙とペンの研究

紙とペンの選定（モノクロ作品）	07
紙とペンの試し書き見本帳の作成（モノクロ作品）	08
紙とペンの選定（カラー作品）	09

●卒業制作の作品出力

12.08 1000 線出力 / 校正刷り	10
12.21 1000 線出力 / 本刷り	11
01.31 UV インクジェット出力 / 貼り箱制作	12

●後期総まとめ

12

●公募用ポスター出力(UVインクジェット)

「日本タイポグラフィ年鑑 2022」と「東京 TDC」に応募



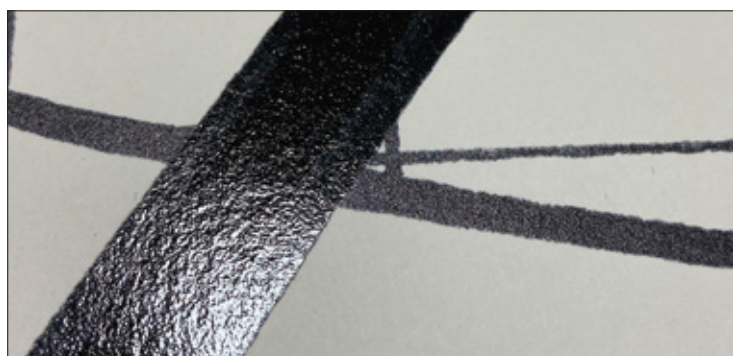
<下図の左>
「R」に見える部分にのみ、ニスを引き。

スキャン解像度：1200dpi
インク：黒 / ニス：セミグロス
紙：アラベール スノーホワイト 130kg



<下図の中央>
「C」に見える部分にのみ、ニスを引き。

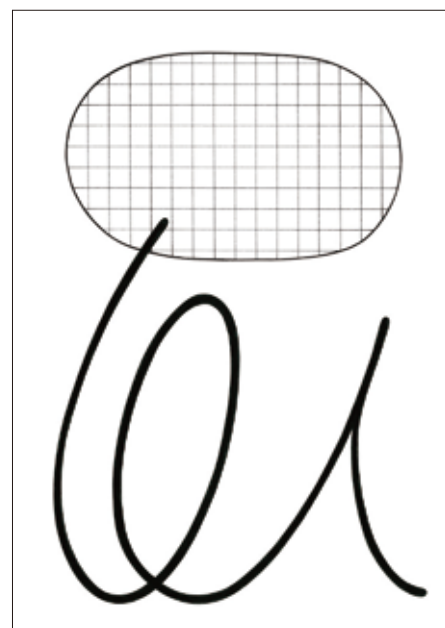
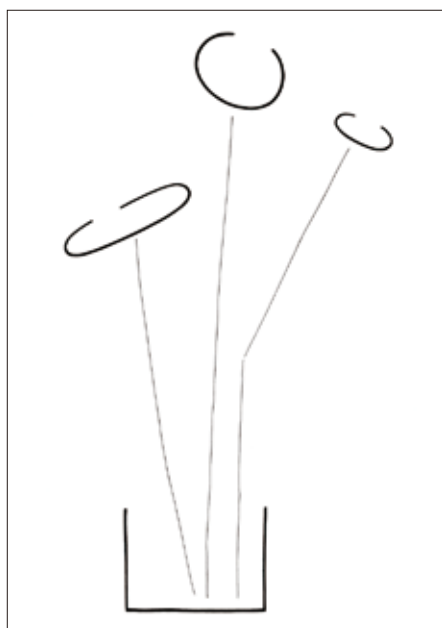
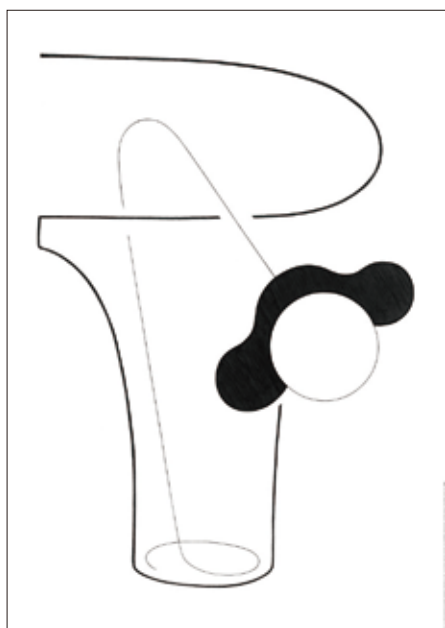
スキャン解像度：1200dpi
インク：黒 / ニス：セミグロス
紙：アラベール スノーホワイト 130kg



<下図の右>
「W」に見える部分にのみ、ニスを引き。

スキャン解像度：1200dpi
インク：黒 / ニス：セミグロス
紙：アラベール スノーホワイト 130kg

【タイポグラフィ年鑑 2022 に入選】



「TEN」

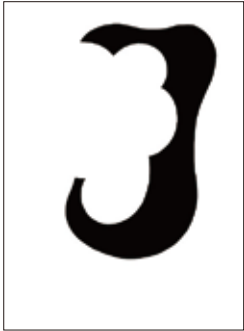
Art work , Design by OTANI Haruna

● A サンプルの作成・出力 (UV インクジェット)

スキャン解像度：1200dpi/ 印刷紙：マーメイド

1回目：黒インク厚盛り+グロスニス

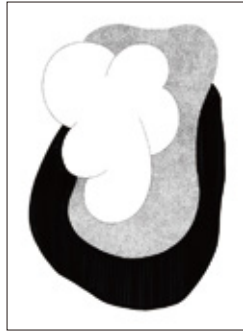
11.11



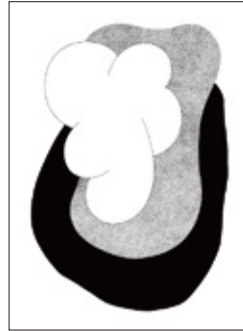
①点描部分の下地にニスを全面に刷る



②塗りベタ部分のみに白インクを厚盛り



③全体に黒インクをのせる



④全体にセミグロス

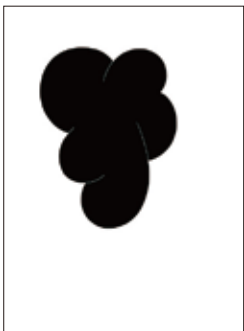


前期に同じアートワークで印刷した際、点描部分が詰まって見え点を小さくしたりトーンカーブで調整をして近づけることができたので、今回も同様に画像処理をしてみたがインクの盛り具合でまた詰まって見えてしまった。全体を見たとき、場所ごとに違った質感がでていたので、面白い表現になった。塗りベタ部分はフラットな感じに出ていたので、もっと黒の濃淡を拾うようにして凹凸をつけるとよりアートワークの味が出たかもしれない。

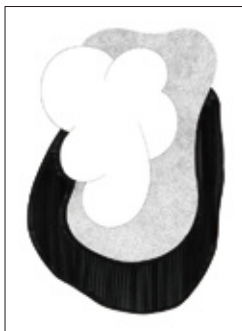


2回目：黒インク厚盛り+白インク+グロスニス

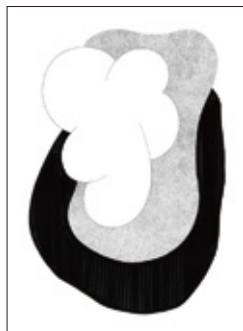
01.13



①グロスニス



②黒インクで全体厚盛り



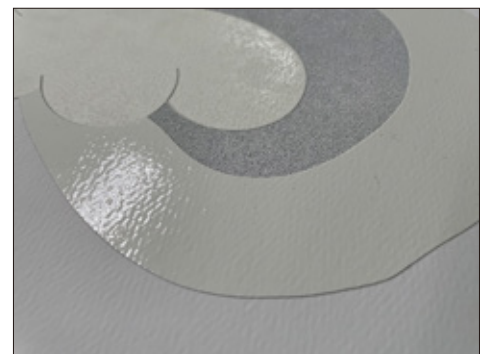
③白インク伏せる



④線と塗りにグロスニス



マーメイド紙にグロスニスだけ刷ると紙がニスをよく吸ってしまい、艶はありつつもセミマットな質感になり、紙の凹凸を拾って斑点模様が出てきて不思議な印象になった。点描は1回目と比べると黒の詰まり具合が目立たなくなり印象が弱くなったことで、良くなった。白インクでも点描なので紙との差もしっかり出ている。反対に塗りベタ部分は印象が弱くなり、今回の印刷ではあまり向いていない様子。

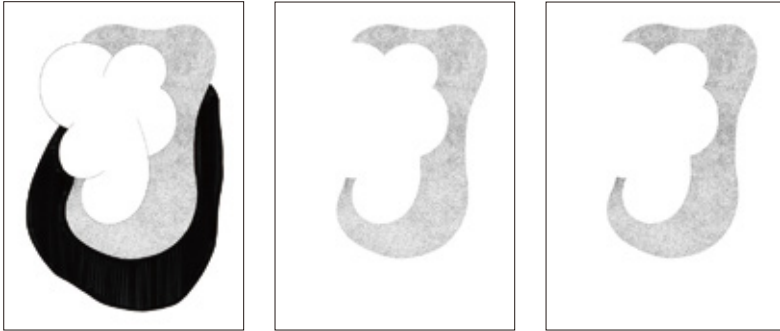


● A サンプルの作成・出力 (UV インクジェット)

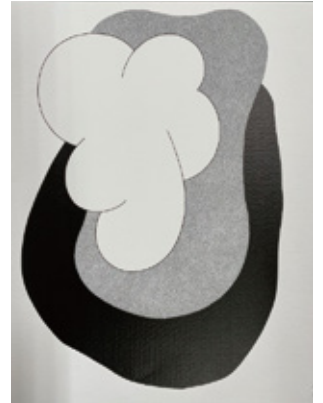
スキャン解像度：1200dpi/ 印刷紙：マーメイド

3回目：黒インク厚盛り+白インク+グロスニス

01.31



①黒インク全体厚盛り ②点描部分に白インク ③点描部分にグロスニス

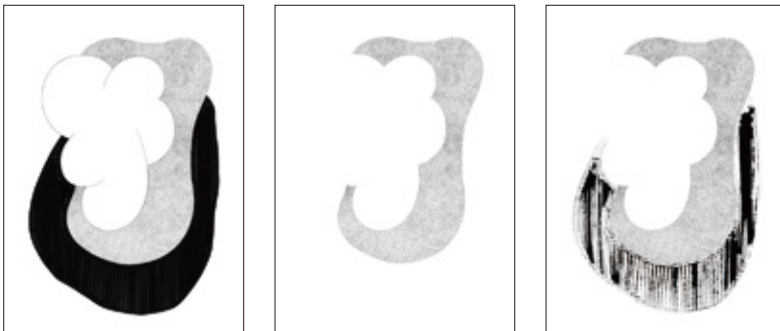


1・2回目は塗り部分にグロスニスをのせていたが、艶が出過ぎてしまいアナログの風合いが消えてしまっていたため、今回はグロスをのせずに出力を行った。結果、マットになり紙の凸凹を拾うことでアナログの風合いを出すことができた。しかし、黒の濃淡がでていないのでのっぺり感は改善されなかった。点描部分は前回同様で白インクで出力すると全体的に柔らかい印象になった。

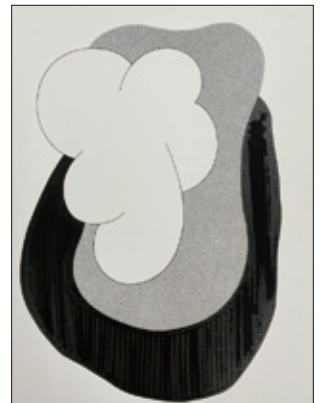


4回目：黒インク厚盛り+白インク+グロスニス

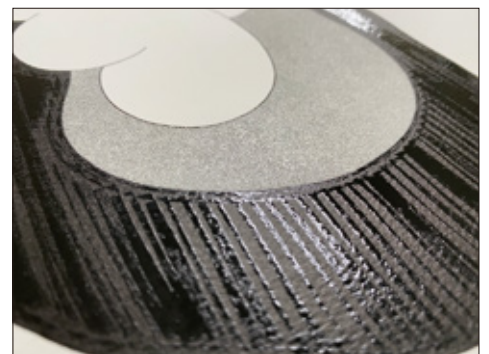
01.31



①黒インク全体厚盛り ②点描の部分に白インク ③グロスニスをのせる



3回目の出力では塗り部分がマットに仕上がったが、黒の濃淡が潰れてしまっていたため、4回目ではその部分を改善させようと試みた。これまでは、画像処理で濃淡の調整を行っていたが、せっかくUVで出力しているのでUVの特性を活かした方式で印刷をしたいと考えた。塗りの濃淡を"インクのみ"のマットな仕上がりとし"UVのグロスで艶を加えた"仕上がりで調子に変化をつけ、印刷の実験を行った。結果、塗り部分ののっぺり感がなくなり面白い表現になったが、艶感が出過ぎているため少し浮いた印象になってしまった。マット感のあるニスに変えると改善されるかもしれない。

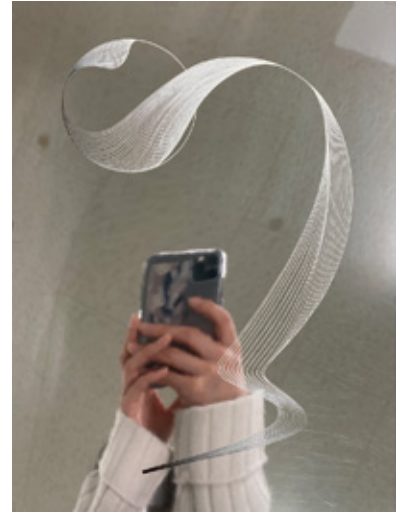


● B サンプルの作成・出力 (UV インクジェット)

スキャン解像度：1200dpi/ 印刷紙：スペシャリティー

1 回目：黒インク+白インク+グロスニス

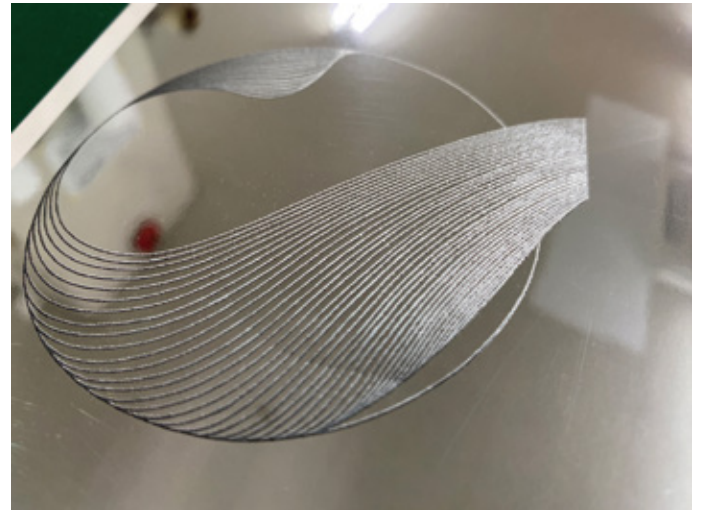
12.16



紙の性質も相まって黒インクを全体にのせたあと、その上から白インクと全体にグロスニスをのせると、白インクの部分は銀色に見えて綺麗であった。また、グラデーションに挑戦し黒と白のグラデーションが上手く出ていた。しかし、中間色の範囲が狭かったので広くするとより綺麗に見えるのではないだろうか。

2 回目：黒インク+白インク+グロスニス

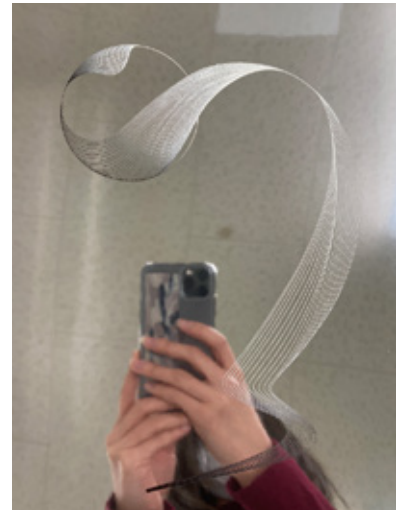
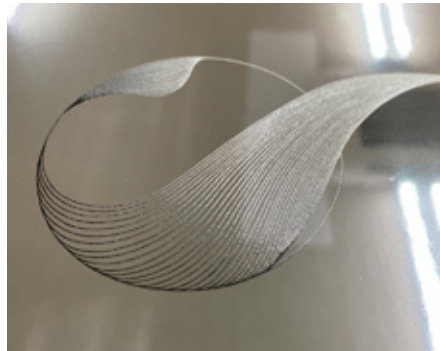
01.13



グラデーションの範囲を広げようとしたところ、やり方に失敗してしまい印刷時に変な境界線が出てしまったので、範囲を広げつつ滑らかなグラデーションに見えるように修正する必要がある。

3 回目：黒インク+白インク+グロスニス

01.31



印刷時に変な境界線がはいることもなく、グラデーションの範囲も広げることができた。1回目と比べるとよりグラデーションが伝わりやすくなった。

同じ紙で黒と白以外の色でもグラデーションに挑戦してみるのも面白いかもしれない。

●紙とペンの研究

アートワークの質を上げる、1000線印刷に向けてのより綺麗な印刷を目指した研究。
画材を振り返り、自分が描きやすく尚且つスキャン・印刷に適した画材を選び求めた。

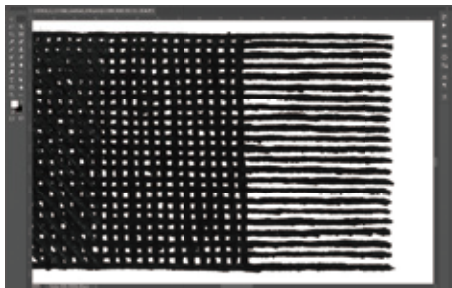
紙の選定

前期	コピー用紙のみ
後期	雷鳥上質 /OK トップコート /b7 トラネクト / ユボ ※ペンやスキャナが紙の凸凹を拾わない、なるべく平滑な紙を選定

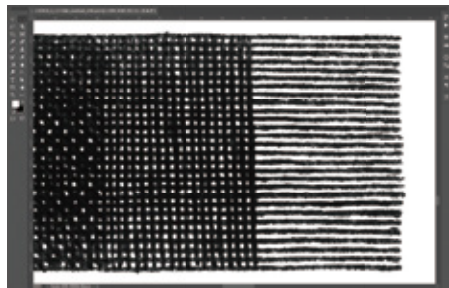
ペンの選定

前期	SARASA/Hi-Mckee/PROCKEY
後期	マッキー /PROCKEY/COPIC MULTI LINER/SigNo/SARASA/JETSTREAMJETSTREAM EDGE/JIM-KNOCK ※紙に合わせたペン選び (書きやすさ、インクのノリ具合、スキャンでの印象)

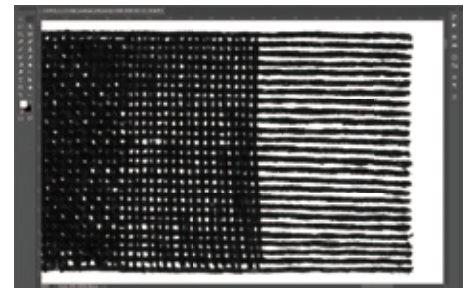
実験紙：雷鳥上質、OK トップコート、b7 トラネクト、ユボの4種の紙で左図のような手描きサンプルを4枚作成。
その中で私は紙の優しい風合いもあり、どのペンでも比較的描きやすかった「雷鳥上質」に注目し研究を進めた。



uni-ball SigNo



uni SARASA



uni JETSTREAM

雷鳥上質 (四六判サイズ /110kg)

(P.08) 原画：A4 サイズ / スキャン解像度 1200dpi

	SARASA	SigNo	JETSTREAM
インクのノリ具合	○	◎	◎
黒の濃淡のつき方	△	◎	◎
線の輪郭の出方	△	◎	○

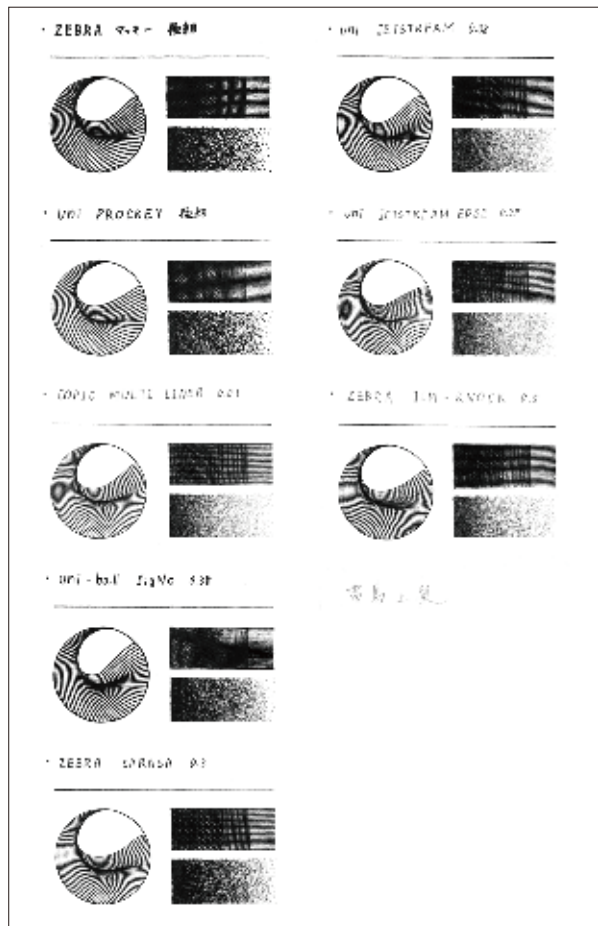
雷鳥上質をスキャンデータでモニター上で確認し、前期で使用していた「SARASA」と気になった「SigNo」、「JETSTREAM」の3本のペンを取り上げインクのノリ具合・黒の濃淡のつき方・線の輪郭の出方を見比べた。

結果

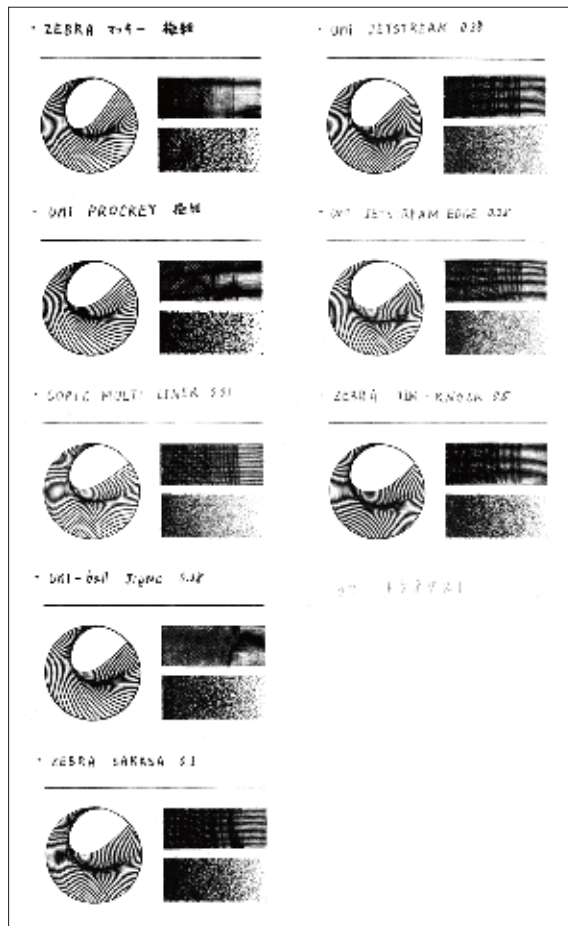
雷鳥上質には SigNo で描くのが一番綺麗で良かった。
黒ベタはマッキーで2度塗りすると綺麗な調子が出ることがわかった。

【紙とペンの試し書きサンプルの作成 (モノクロ作品)】

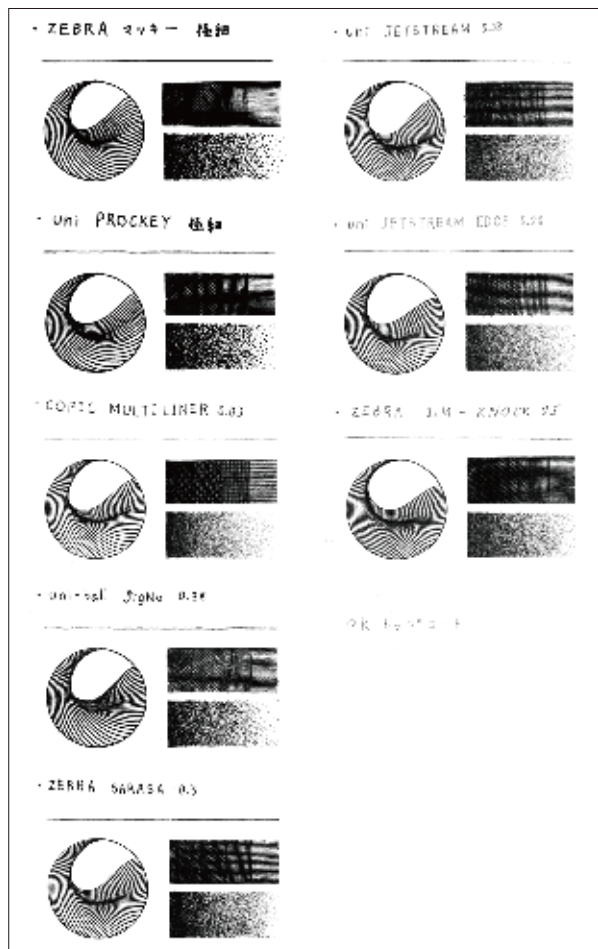
■雷鳥上質



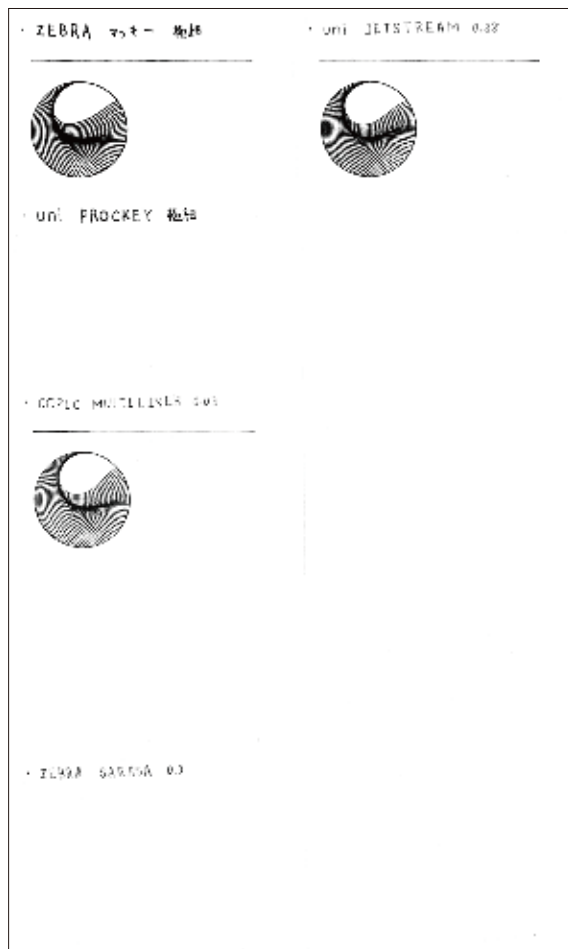
■ b7 トラネクト



■ OK トップコート



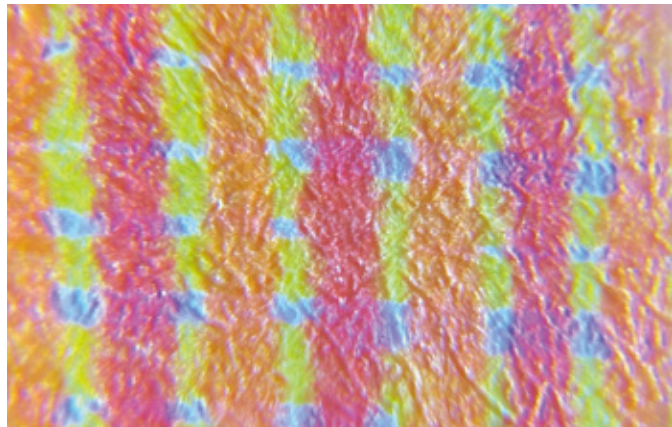
■ ユゴ



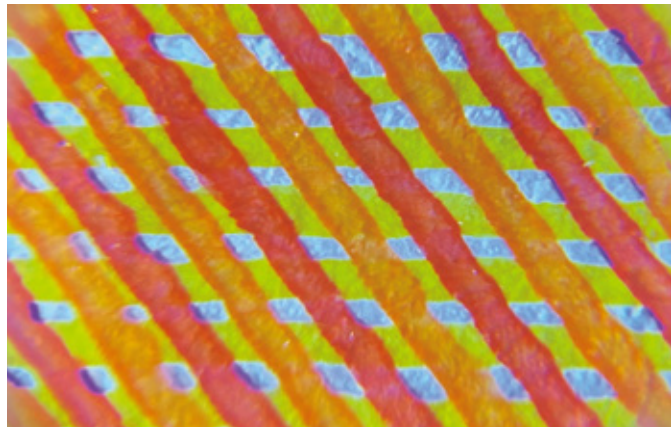
【紙とペンの試し書きサンプルの作成（カラー作品）】

前期のコピー用紙に描いていたときは、ペンが紙のザラつきを拾い風合いが出て良かった。
 しかし、インクが非常に滲みやすく発色が落ちてしまっていた点が問題となった。
 以上のことから、改善点として紙のザラつきを拾いつつもインクの滲みが少なく、エッジが綺麗であることが大事である。

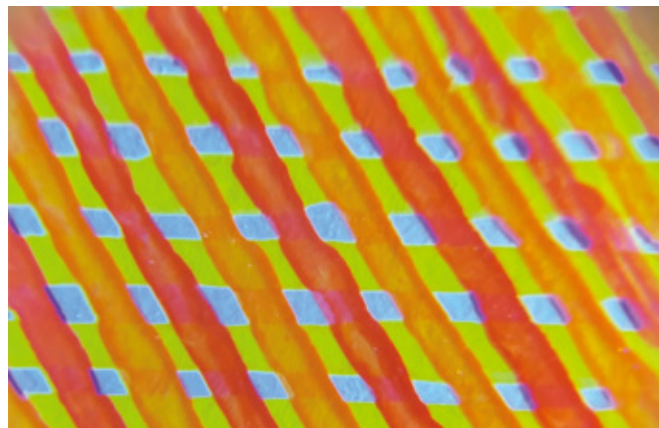
■コピー用紙



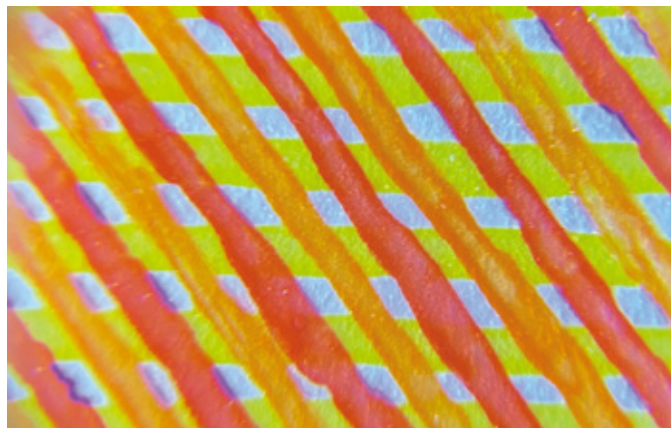
■b7トラネクスト



■OKトップコート



■ユボ



	b7トラネクスト	OKトップコート	ユボ
インクのノリ具合	◎	◎	○
線の調子	◎	△	◎
線の輪郭の出方	◎	△	◎

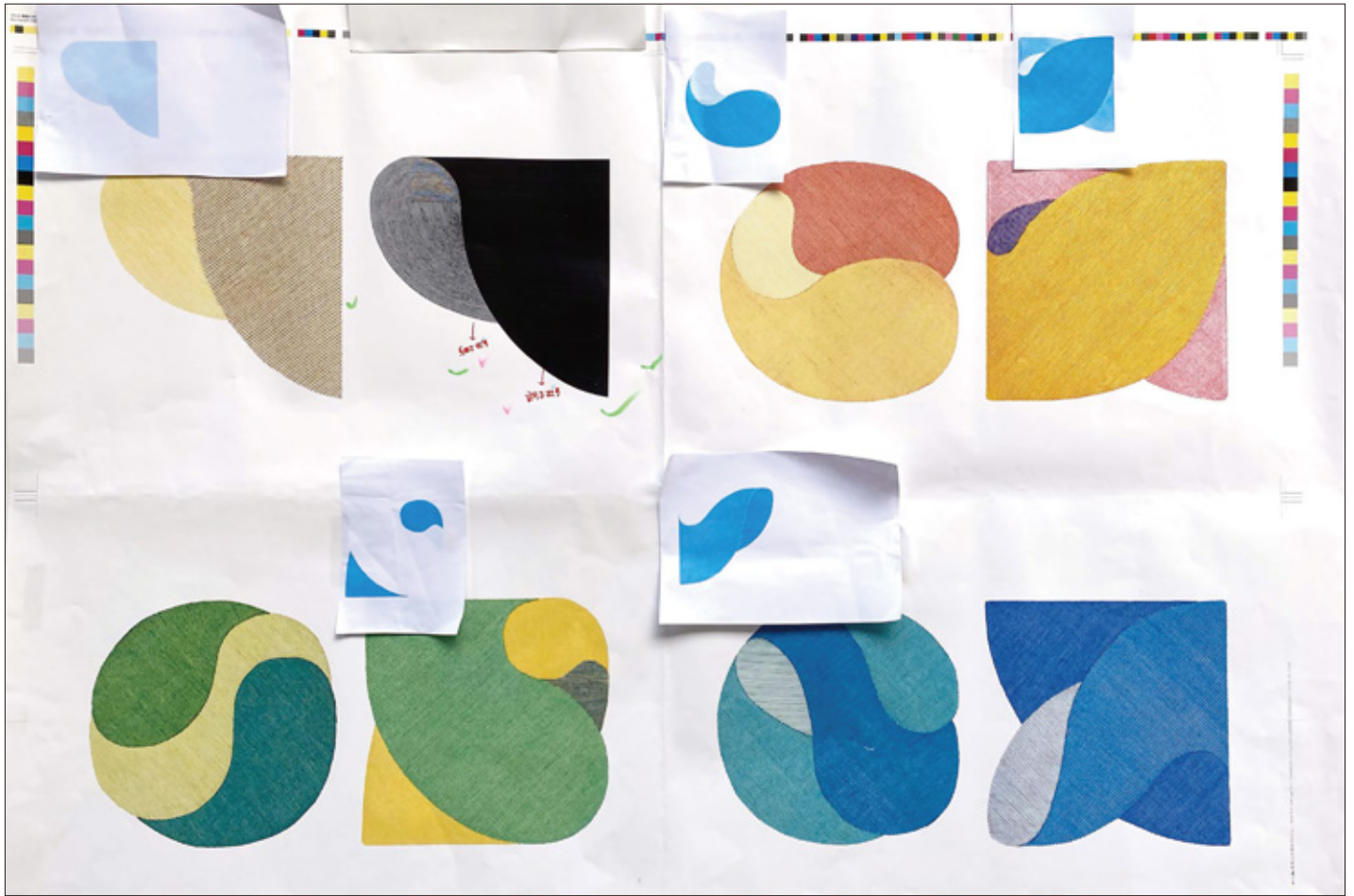
実験紙：b7トラネクスト / OKトップコート / ユボの3種の紙にマッキーで試し描きをし、それぞれルーペで拡大して確認。
 それぞれのインクのノリ具合・線の調子・線の輪郭の出方を見比べた。

結果

b7トラネクストに描かれた調子が一番理想に近い印象であった。

● 1000 線出力 / 校正刷り

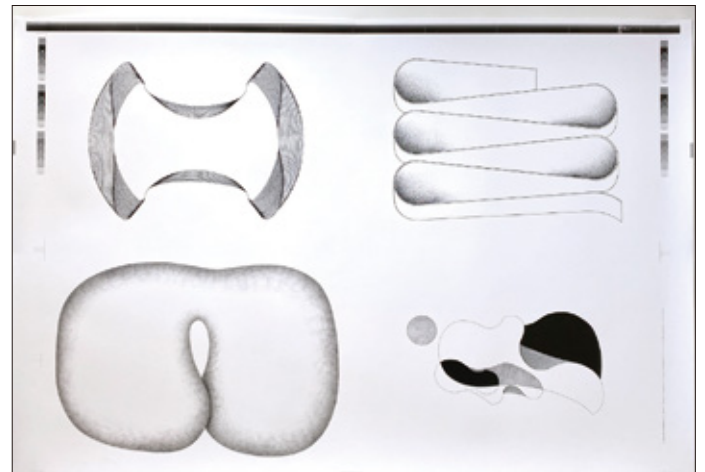
印刷色：CMYK + 特色ピンク、トリプルトーン / 印刷紙：ヴァンヌーボ V



【CMYK + 特色ピンク (カラー作品)】



【トリプルトーン (モノクロ作品)】



前期レポートより、カラー作品は CMYK だけでは色の再現が難しかったことから 1000 線印刷の「CMYK + 特色ピンク」の 5 色刷りで進めていくことに決定した。緑系統の色は既に原画と同じ色味で表現することに成功していたため、校正の段階から原画に近い印象に刷り上がっていることが分かる。気になった箇所が 2 点あり、ピンクの濃度が高い箇所の線が潰れてしまっているので線の切れを良くすること、青や赤・ピンク・オレンジの格子にいたった箇所の色味を鮮やかにするという点である。この 2 点が改善されることで限りなく原画に近い表現になるのではないだろうか。

前期レポートより、モノクロ作品は 1000 線印刷の「トリプルトーン」の 3 色刷りで進めていくことに決定。トリプルトーン印刷でも校正刷りの段階から原画に近い印象に刷り上がっていた。気になった点としては、線の潰れが見受けられる箇所があるので線を細くして修正するということと、塗りベタ部分の黒の濃淡をもう少し引きだせるといった点である。モノクロ作品の校正刷りは、数に限りがあったので 4 点のみになってしまったが、本刷りでは上図の作品を基準に他の作品の調子も揃えるようにする。

● 1000 線出力 / 本刷り

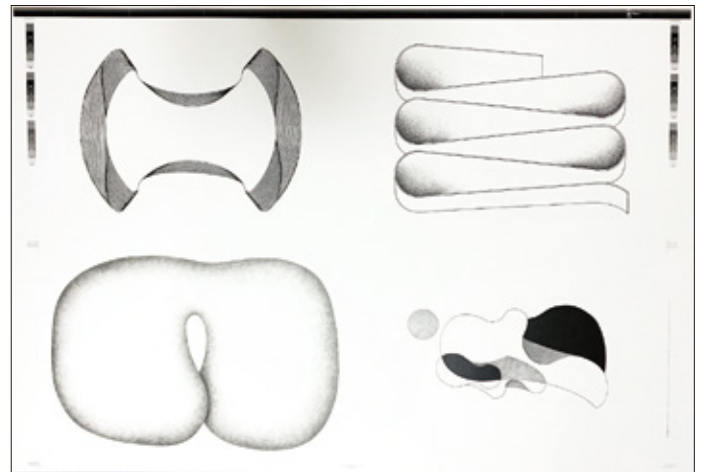
印刷色：CMYK + 特色ピンク、トリプルトーン / 印刷紙：ヴァンヌーボ V



【CMYK + 特色ピンク (カラー作品)】



【トリプルトーン (モノクロ作品)】



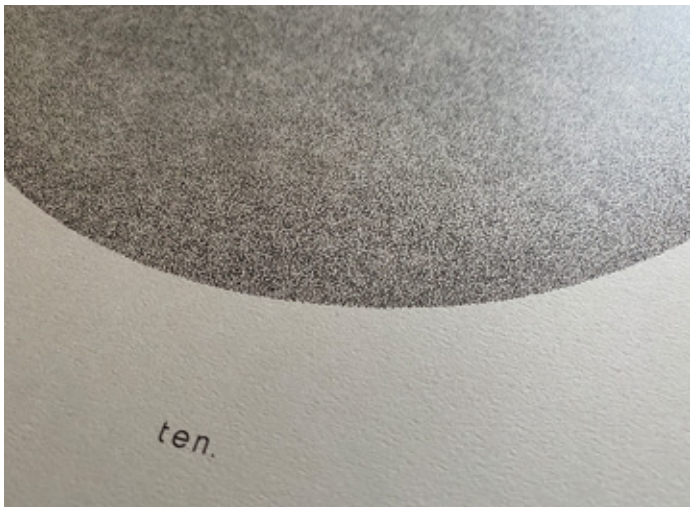
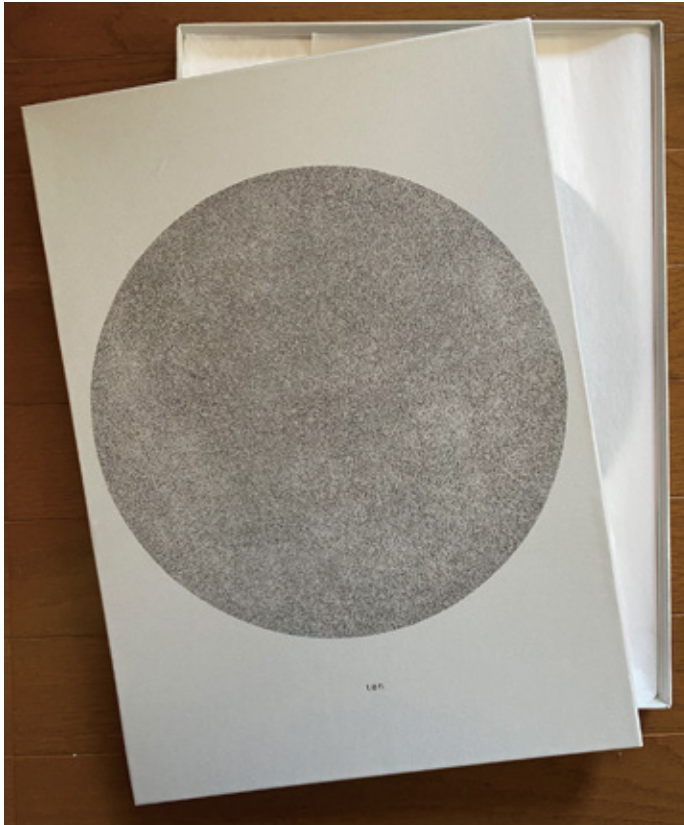
原画にとっても近い仕上がりに
なった。前ページで述べた気
になった点も全て改善され、
より線が鮮明に出ており、カ
ラー作品4点とも綺麗な発色
で刷られていた。オペレー
ターの方と相談しながらア
ートワーク2点のみピンクの濃
度を上げていただいた。



線は潰れた箇所が修正され、
黒の階調が見えるようになって
おり、綺麗に刷られていた。
点描は1点だけ気になり、少
し抜けた印象になってしまっ
たものがあり、インクの濃度
を上げていただいても調整が
難しかった。塗りは黒の濃淡
が出て、良くなっていった。
しかし、作品によって濃淡の出
方に少し差がでてしまった。

●貼り箱制作 / メインビジュアルの印刷 (UV インクジェット)

スキャン解像度：1200dpi/ 印刷紙：タント



印刷紙：タント / 色：S-6/ 厚み：100kg

【貼り箱の紙選定・調整】



印刷紙：NT ラシャ / 色：グレー 50/ 厚み：70kg



印刷紙：NT ラシャ / 色：グレー 70/ 厚み：70kg



印刷紙：タント / 色：S-6/ 厚み：100kg

作品のトーンに合う紙を3枚用意し、その中から貼り箱に使用する紙の選定を行った。メインビジュアルの良さを無くさない紙を選ぼうとしたところ、タントが一番メインビジュアルを引き立たせることができたため、貼り箱に使用する紙にタントを選定。

試しに印刷してみたところ全体を見たときの点描の密度・濃度に差があり、まだらであったため綺麗に見えなかった（上図①）。そのため、画像処理で部分的にトーンカーブを掛けて調整を行ったことで徐々に改善され綺麗な仕上がりになった（上図②③）。

後期まとめ

後期ではサンエムカラーさんの資料用サンプルの作成と卒業制作の印刷を同時進行で行っていました。

前期で行ったUVインクジェット印刷では、アートワークの原画に近づけさせることを目的とした画像処理・印刷を行っていたため、あまりUVインクジェットの特性を活かしきれていませんでした。ですが、後期の資料用サンプル作成でもUVインクジェットの印刷に挑戦する機会をいただき、後期ではUV印刷の特性を掴み楽しみながら出力を行いました。そこでは、インクの厚盛りや白インク、ニスを使った表現など私がやりたいと思う出力方法をDTPの方に相談しながら進めさせていただきました。印刷紙も特殊な紙を用意していただき、グラデーションを使ったメタリックでカッコいい表現をすることができたり、同じ紙で何度も印刷実験をすることで紙との相性を探り表現の幅も広げることができました。

卒業制作の印刷では、カラー作品の画像処理がとて難しくDTPの方にその時そのときの細かな色調整の仕方を教わりました。格子状に重なったそれぞれの線の色を拾って調整していくことはとても地道な作業であり、印刷に関わってくる部分でもあるため慎重に行っていく必要がありました。自分で一度画像処理をしてみることで原画に正確に合わせていくことの難しさ、DTPの方の技術の高さを知る良い機会になりました。また、校正刷りと本刷りとで2回立ち会いをし、現場で修正・インク濃度の最終調整の指示を出し、原画に限りなく近い印刷が可能となりとても感激しました。学生の間でこのような経験ができたこと、私にとって糧になり貴重な時間になりました。